

## マハティール・ビン・モハド氏が学校法人東洋大学の顧問に就任 マレーシア元首相が語る アジアの経済と教育の未来

マレーシア首相を22年間務めたアジアのリーダー、マハティール・ビン・モハド氏が、学校法人東洋大学の顧問(学術研究)に就任した。東洋大学は、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択され、アジアの“ハブ大学”としての役割を果たすため、2017年度に新学部・新学科を開設するなど、全学でグローバル化を推し進めている。顧問就任にあたり来日したマハティール氏に、アジアの経済や人材育成についての提言を伺った。

### 普遍的な価値観を持つ人材を 世界に輩出する

—学校法人東洋大学の顧問に就任されるにあたり、アジアの国々のあるべき姿について、今のお考えをお聞かせください。

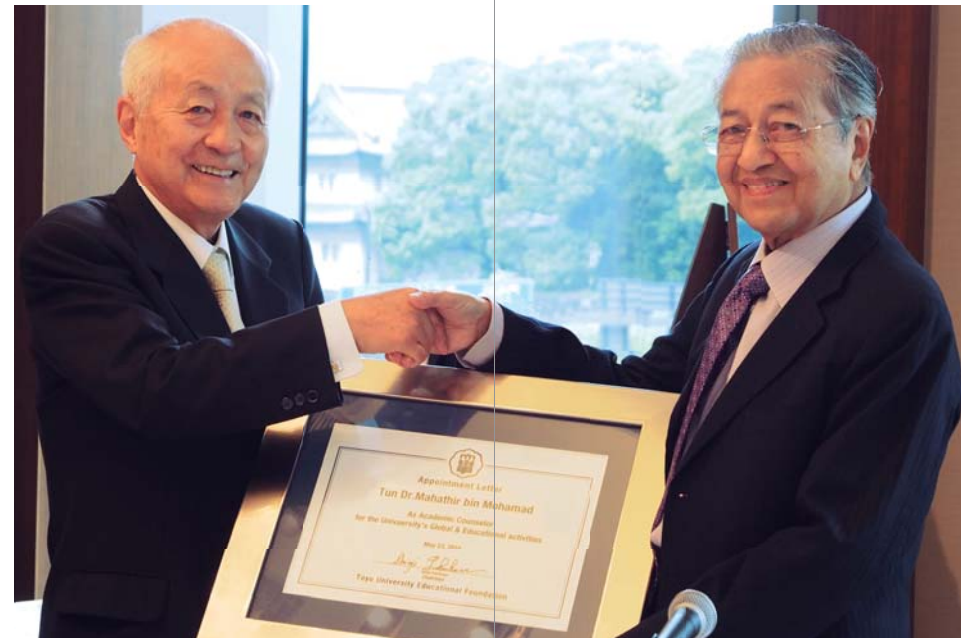
現代社会は急速にグローバル化しており、我々はこれまで経験したことのない変化に直面しつつあります。過去数世紀にわたり、世界の中心は欧米にありました。しかし、今はアジアの国々も大きな影響力を持ち、我々がリーダーシップをとっていかねばなりません。

不安定な通貨、貧富の差の拡大、国家や宗教の対立など世界にはさまざまな課題がありますが、東洋大学は、「哲学」をその教えの基礎に置いていると聞いています。世界の諸問題は紛争では

なく、哲学・思想など普遍的な価値観によって解決されるべきです。学校法人東洋大学の顧問に就任することによって、私も国家を超えた普遍的な価値観の確立に貢献したいと考えています。

—欧米ではなく、日本の勤勉性や品質へのこだわり、技術の卓越性などに学ぶべきであるとする「ルック・イースト政策」を探られていましたが、現在も同じお考えでしょうか。

私が初めて日本を訪れた1961年、当時の日本は戦後の国家再建の最中にありました。そこで私は日本人の勤勉さ、規律正しさに心を打たれ、「これからは欧米ではなく、日本を手本としてアジアを発展させるべきだ」と提唱したのです。その思いは今も変わらず、アジアならではの文化・価値観を築き上げ、経済だけでなく、知識と人間性



福川理事長(写真左)からマハティール元首相(写真右)に

によって国力を高めるべきだと日々考えています。

—近年、中国をはじめとするアジアの国は急速な経済発展を遂げましたが、今後の見通しについてはどのようにお考えでしょうか。

経済成長について語るとき、どうしても経済成長率の数字に目が行きがちですが、私はそれよりも成長の質に注目します。中国ではGDP(国内総生産)が上がる一方で、所得の格差が広がってしまいました。これからは成長の度合いは弱まってしまうかもしれませんが、たとえ成長率が低くても、わずか1パーセントの成長の中に、国民全体の生活をさらに充実したものにできる可能性があります。マレーシアの経済成長率は現在4~5パーセントですが、今後この

数字が下がっても、個々の生活の質は向上させることができるのではないかと考えています。

—現代の世界が抱えている諸問題を解決するために東洋大学が目指すべきことをお教えてください。

アや世界の平和に貢献することができるのです。

### 多国間の学生交流で 豊かな人間性が育つ

—日本の大学とアジアの教育機関が協力して行えることは何かお教えください。

まず、お互いのことをよりよく知る機会を持つことが大切です。互いの国々で大学間の提携を強化し、日本人学生が他国で学ぶと同時に、より多くの外国人学生が日本で学ぶ機会を持つことができるようになるとよいでしょう。一国の中で優れた教育機関が不足していたり、特定の専門分野の教育機会が欠けていたりする場合も、それを補うことが可能になります。

また、インターネットの普及により、現在では世界の様子を容易に知ることができ、人々は海外の情報に関心を持つようになりました。以前はマレーシアといっても「シンガポールの近く」といったようなイメージしかない人が多かったのではないのでしょうか。今ではどのような街があり、人々がどう暮らしているのか、インターネットを介して知ることができます。そうして他国についての知識を得て、実際に訪れてその国の文化や生活に触れることは非常に有益であると考えます。そして、国と国との交流が盛んになるにつれ、国際共通語としての英語の重要性もさらに高まっています。留学して現地の言葉を学ぶと同時に、英語でのコミュニケーション力をさらに鍛えることができるとよいでしょう。

—東洋大学は留学生の派遣や受け入れの促進をはじめ、国際編入制度や単位互換制度などによって、アジアの大学の学生が世界中で流動的に学ぶためのハブ大学(中継基点)となることを目指しています。異なる国籍の学

生がともに学ぶことのメリットとはどのようなものでしょうか。

新しい知識や発見を他国の学生たちと共有する、またとないチャンスであると思います。一般に、現代社会では、仕事を得るにはビジネスやサイエンスを学ぶことが重要であるように思えるかもしれませんが。目標・目的を持って学ぶのは良いことですが、単に将来の仕事のためだけに学ぶのではなく、さまざまな国の学生と交わることで、幅広く人間性を養う機会を持ってほしいと考えます。新しい知識や技術を社会の中で平和的に生かすには、やはり優れた人間性が問われます。その人間性を育てるのが、これからの大学教育の使命です。

—最後に、日本滞在の感想をお聞かせください。

日本では温泉を訪ね、旅館での滞在を楽しみました。旅館では和室に泊まりましたが、マレーシアにも床の上に寝るという習慣があります。外国の若者も、実際に日本に来て、日本の習慣に触れ、異なる点や身近に感じられる点を、自分の目で発見してほしいと思います。



マレーシア元首相  
学校法人東洋大学 顧問(学術研究)  
東洋大学名誉博士

### マハティール・ビン・モハド氏

1981~2003年までマレーシア首相を務める。強力なリーダーシップによって、同国の発展をけん引した。日本・韓国の勤勉さに学ぶべきであるとする「ルック・イースト政策」を推し進めたことで知られている。著書に「ルック・イースト政策から30年 マハティールの履歴書」(日本経済新聞出版社)など。

### マハティール顧問との意見交換会開催

2016年5月30日(月)



マハティール元マレーシア首相の顧問就任を記念し、2016年5月30日(月)パレスホテル東京にて、学校法人東洋大学がマハティール顧問と役員・教員らの意見交換会を開催した。会には福川伸次理事長、竹村牧男学長らが出席し、アジア経済の行方や大学教育への期待について、活発な意見が交わされた。